

<b>課題名</b> 開発農地の加工・業務用野菜の安定生産支援	地域づくり	丹後農業改良普及センター
<b>(1) 普及指導事項 (評価対象)</b> 普及指導事項①: 持続可能性を確保し、競争力強化を目指す産地の支援	<b>(2) 普及指導対象</b> 加工契約野菜部会 (加工・業務用キャベツ) 22 名 (1 営農組合、2 法人含む)	
<b>(3) 活動内容と成果</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>加工契約野菜部会 (加工・業務用キャベツ) を対象として、GAP 説明会・研修会を 5 回、栽培研修会・巡回 (GAP 対応栽培指針の確認作業等含む) を 5 回開催し、GAP 認証取得に向けた活動を行った。</li> <li>令和 7 年 6～8 月に高温乾燥による生理障害発生抑制に関する情報発信やほ場巡回を関係機関とともに実施し、栽培の改善を試みた。</li> <li>大規模面積栽培者に対し、省力的防除手法 (ドローン防除) の提案を行い、民間企業の協力のもと、実演会を 6 月 30 日に実施した。</li> <li>これらの結果、GAP 認証取得においては、12 月実施の GAP 認証本審査前に実施した事前審査において、部会員全員がほぼ合格できるところまで到達。また、生理障害回避は完全には行かなかったが、契約数量 100% を達成 (年度前半及び 10、11 月出荷分の集計。12、1 月分は現在集計中)。ドローン防除では、3 名がドローン導入に向け検討に入っている。</li> </ul>		
<b>(4) コメント</b>	<b>(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等</b>	
<要約> キャベツやネギ、カンショによる加工契約野菜産地の形成や、品質・定量出荷の徹底による実需者からの信頼確保は大きな成果であり、GAP 団体認証取得に向けた普及センターの指導を評価できる。また、芯腐症対策やドローン防除の導入など、大規模生産の課題に即した技術支援も有効であった点が評価できる。 GAP 認証取得の経済的効果の整理が必要であるとともに産地を維持・発展できるように生産者グループ内の協働体制維持、スマート農業導入、認証の継続取得に向けた支援の充実について今後の継続的な活動に期待する。	令和 8 年 2 月に GAP 団体認証を取得し、それを取引価格に反映できるよう交渉中であり、定量出荷に向けた栽培指導と認証が継続できるよう引き続き活動していくこととしています。 芯腐症対策についても、今年度の成果を踏まえ、技術普及を行うとともに、ドローン防除については、導入された生産者を核として共同防除の体制に向けた働き掛けを実施中です。 また、認証を契機に、新たな取引先開拓を提案する予定です。	